本年度（令和２年度）の学校評価

本年度の重点目標	さまざまな場面を通じて、生徒が自主的な学習者となることができるよう、教科及び分掌で創意工夫する。教員の多忙化解消に向けた取り組みを継続する。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留　意　事　項
保護者・同窓会との連携 （総務部）	・保護者に対し、本校教育活動への更なる理解・協力を得るため、ＰＴＡ活動への積極的参加を呼びかけ、役員中心の運営を目指す。また職員との連携の強化を図る。 ・PTA 各種委員会活動の更なる充実と各委員会間の連携をより一層図る。 ・保護者懇談会の運営側の負担を考え、より良い運営を考える。 ・ホームページの運営を見直す。また、更新等を適切に行い、更なる充実を図る。 ・同窓会の充実・発展への支援をする。役員との連絡を密にする。 ・式典運営について多方面との協調を図り、魅せる式典運営をめざす。	・ＰＴＡ各種委員会で、各活動への積極的参加を依頼するとともに、きずなネット、ホームページなどを通してＰＴＡ活動の積極的発信をする。保護者のニーズに合った研修会を実施する。 ・ＰＴＡ会員・委員による評価を行い、結果をできるだけ反映させるようにする。 ・同窓会の役員中心の活動を、積極的に支援し、組織の充実を図る。 ・ニーズにあった式典内容を考える。 ・ホームページの運用について他分掌とも連携をする。ホームページ運用委員会等の設置	・ＰＴＡ活動に積極的な参加ができる雰囲気を作る。 ・ホームページ、広報誌「みな美」等を通して、ＰＴＡ活動の広報・発信を行い、ＰＴＡ活動についてのさらなる理解・協力を依頼し、連携の強化を図る。 ・ＰＴＡや同窓会との連携・協力体制をより一層深める。
学習指導 （教務部）	1　学力向上につながる家庭学習の取組について 2　次期学習指導要領実施に向けた教育課程の確定 3　校務支援システムを年次進行で始動	1　授業の質的向上を図るとともに、生徒が予習・授業・復習のサイクルを確立できるよう 指導内容・指導方法について工夫をする。 2　長期休業中及び学校休校期間中等の課題の量及び質の適正化を検討する。適切な学習課題を与える事によって、生徒自身が自主的に学ぶ姿勢を確立し、習慣化を図る。 3　2022 年度からの次期学習指導要領の内容把握、カリキュラムの確定を行う。 4　年次進行で、まず指導要録から校務支援システムを導入していく。	1　高校生活実態調査の結果による課題への取組状況の変化 2　教科主任会、教科会、学年会との連携を密にし、成績不振の生徒・欠課の多い生徒の状 況把握と早期の対処に努める。 3　今年度からの校務支援システムの導入に際して、どの程度導入していくかを各分掌と連携して慎重に見極める。
進路指導 （進路指導部）	・生徒の進路意識を喚起し、各自が自立した進路選択ができるように導く。	・各学年に適した進路ガイダンスを実施し、生徒が各自の将来の目標に向けた進路実現を達成できるよう指導する。また、各学年の要望を把握し、適切な情報を提示する。	・各学年と連携をとり、適切な資料を提示し、生徒の進路意識を喚起する。 ・大学入学共通テストに向け、全職員と情報を共有し、対応を検討す

		・キャリアガイダンス等を通して、職業を見据えた進学等を考えさせる。さらに国公立大学で開催される高校生向けの学習講座などを紹介し、知的好奇心を高め、学習意欲の喚起に努める。	ると同時に、保護者、生徒には正確な情報を提示する。
生徒指導 （生徒指導部）	・規律ある生活習慣の確立と定着　～自己指導力の育成～ ・いじめ防止についての取り組み	・年６回の「身だしなみ指導」を実施。 ・遅刻防止のための「校門立ち番指導」を実施。 ・スクールカウンセラー（ＳＣ）の設置と連携。 ・スクールソーシャルワーカーの仕事の理解。 ・生徒指導部による、企画運営の講話や全体集会の実施。 ・年２回のいじめアンケート実施と結果への対応、教育相談に繋ぐ	・学年会と協力し、段階をおった指導を日常的に粘り強く行う。 ・制服を自ら端正に着用するよう指導の工夫を図り、自己指導力を定着させる。 ・校門遅刻３回で３日間の早朝登校(8:10)を課し、生活のリズムを整えさせる。 ・ＳＣとの連携による教育相談の充実を図る。 ・生徒に対し、毅然と受容のバランスを念頭においた指導の実施。
図書館活動 （研修部）	・生徒の読書意欲の向上と情報・学習センターとしての図書館の充実 ・授業研修週間の活用	・図書資料の充実と、読書・学習活動の場としての環境整備をさらに推進する。 ・図書委員会の主体的な活動をサポートする。 ・「授業研修週間」を設定し教職員へ周知する。	・生徒の読書意欲を高めるため、行事・広報活動の工夫に努める。 ・図書委員の各係活動において、生徒自ら企画し、運営するように指導する。 ・「授業研修週間」が他の現職研修に活用されるように配慮する。
特別活動 （特別活動部）	主体的な生徒会活動の充実	・執行部会・各種委員会の活性化及び定例日の活用 ・生徒会執行部、各種委員会による行事の企画・運営とそのための組織作り ・生徒会室の整備、資料・記録の整理 ・ボランティア活動（校外清掃・募金運動など）の企画・運営	・生徒会執行部と各種委員会の連携を密にし、各種行事において組織的な活動ができるように指導・助言する。 ・長期・短期計画を立てることで、健全な活動時間を心掛けさせる。 ・生徒議会・各種委員会の運営を生徒自身で行えるようにサポートする。 ・行事の企画・運営において、危機管理の観点も視野に入れる。 ・資料・記録を整理できるような環境を整え、生徒間で引き継ぎをできるように援助する。 ・生徒会行事・ボランティア活動の充実を図るために活動内容・方法を工夫・見直しをする。
美化活動（ｺﾞﾐ分別回収の徹底と清掃の充実） （保健部）	・１０分間清掃の充実（監督者不在時の清掃） ・外から持ち込んだものは極力持ち帰るように働	・分別回収に対する生徒及び教職員の意識高揚を図るため、掲示物を整備し、呼びかけを充実させる。 ・清掃場所への移動を早くするとと	・美化委員会を随時開催し、各クラスでの問題点、改良点などの情報交換を充実させる。 ・紙類を含め、すべてのゴミの分別

	きかける（ゴミの減量化）。 ・ゴミ分別意識をさらに高める。 ・トイレ環境の整備・美化と、その維持に努める。（トイレの正しい利用方法の普及・徹底と清掃の充実）。	もに、屋外清掃時は靴の履き替えを徹底する。 ・現場（教室）での分別回収を徹底する。 ・美化委員会を開き、委員の仕事を徹底させる。 ・生徒（特活部）に働きかけ、生徒の自主活動を通じて美化意識を高めていく。 ・校門付近で配られるチラシ・パンフレット類の受け取りについての指導を徹底させる。	に関して、根気よく継続的に啓発する。
学校運営 （教頭）	・教員の多忙化解消 ・部活動の適正な運営	・教員の多忙化解消プラン・部活動ガイドラインに沿った学校運営を進める。 ・分掌等の役割分担について、一部に負担がかからないように配慮する。	・学校開錠 7 時、閉庁 20 時を守れるよう職員に呼びかける。 ・部活動運営方針・各部の年間指導計画を HP にアップし保護者に周知する。 ・各部の月間活動計画については、休養日の取得日数について、生徒の健康面や学習時間の確保のため、各部顧問と相談していく。

学校関係者評価を実施する主な評価項目	・学習指導、進路指導の充実 ・規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 ・わかる喜び、知る喜びを持たせるための授業改善 ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組

(4)　前年度の学校評価

ア　自己評価結果等

本年度の重点目標	さまざまな場面を通じて、生徒が自主的な学習者となることができるよう、教科及び分掌で創意工夫する。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保護者・同窓会との連携 （総務部）	・保護者に対し、本校教育活動への更なる理解・協力を得るため、ＰＴＡ活動への積極的参加を呼びかけ、役員中心の運営を目指す。また職員との連携の強化を図る。 ・名南地区ＰＴＡ研修会での発表を受け、ＰＴＡ各種委員会との更なる連携を図る。 ・保護者懇談会の更なる改善を図る。 ・ホームページの更新を適切に行い、更なる充実を図る。 ・同窓会の充実・発展への支援をする。役員との連携を密にする。 ・式典運営について多方面との協調を図り、魅せる式典運営を目指す。	・ＰＴＡ委員会で各活動への積極的参加を依頼するとともに、きずなネット、ホームページなどを通してＰＴＡ活動の積極的発信をする。保護者のニーズに合った研修会を実施する。 ・ＰＴＡ委員による評価を行い、結果をできるだけ反映させるようにする。 ・同窓会の役員中心の活動を、積極的に支援し、組織の充実を図る。 ・ニーズに合った式典内容を考える。	本年度の総務関係の行事等は、ほぼ予定通りに終了することができた。来年度に向けて継続をしていきたい。 ・PTA 総会への出席者数は前年並であった。昨年度からさらに１クラス減であったが、参加者数減はなかった。 ・PTA 委員会の出席状況は良好であった。各種委員会活動も良好である。全体的には積極的な活動であった。 ・3 回の研修会（家庭教育講座含む）は盛況の中で実施できた。計画から PTA 主導で助言をしながら実施をした。うまくいかない点もあったが、PTA と協力して今後も実施していきたい。 ・名南祭バザーの提供物品は少し減少した。それに伴って収益も少し減少したが、成果を得ることはできた。 ・昨年度 PTA 名南地区研修会において活動内容を発表したことから、他校 PTA と連携を図ることができた。本校の活動内容を実施したいとの要望に協力をした。 ・各家庭への配布物については、本年度もきずなネットの掲載を行い、配布物が保護者の目にとまるようになったが、保護者からの配布物すべてへの掲載要望がでた。今後検討していく予定 ・保護者懇談会は、本年度も PTA 主導で実施した。２日間開催について今後検討をしていくこととした。 ・学校への評価は昨年度よりは向上したが、例年のように、学習、進路指導については、厳しい意見もあった。 ・式典の静寂はしっかりと保たれた。 ・本年度は同窓会総会を開催しない年であったので、役員は入会式への参加のみであった。 ・ホームページは機をみて更新した。より見やすいように、作業を継続している。

学習指導 （教務部）	・学力向上につながる家庭学習の取組について。 ・次期学習指導要領実施に向けた教科科目の研究。 ・成績処理システム導入に向けての始動。	・授業の質的向上を図るとともに、生徒が予習・授業・復習のサイクルを確立できるよう指導内容・指導方法について工夫をする。 ・長期休業中等の課題の量及び質の適正化を検討する。適切な学習課題を与えながら、自主的に学ぶ姿勢の確立・習慣化を図る。 ・2020 年度からの次期学習指導要領の研究を始めていく。 ・１年間かけて、成績処理システム（メソフィア）の内容の把握、理解に努める。	家庭学習への取組について ・１・２年生は、学期を追うごとに家庭での学習時間が減っている。 ・平日の家庭での学習時間が３０分以下という生徒と、スマホ使用時間３時間以上の生徒が対応していると思われる。 ・今後もスマホが与える高校生への悪影響を伝え、適切な付き合い方ができるように学校全体となって促していく必要があると思われる。 新学習指導要領実施に向けた取組について ・昨年度教科主任会を通して、本校生徒の強みや今後目指したい生徒について検討を加え、それらを踏まえて各教科から提示された希望を具体的に割り振り案を提示した。 ・来年度秋の県への報告までに教科主任会で議論や検討をかさね、時代とともに変化する生徒に対応しながら、名南生としての学力水準を伸ばす事を考えて、適切な対応を取っていく方針である。 成績処理 ・メソフィアと切り離して新たな成績処理システムを構築していく必要がある。
進路指導 （進路指導部）	・生徒の進路意識を喚起し、各自が自立した進路選択ができるように導く。	・各学年に適した進路ガイダンスを実施し、生徒が各自の将来の目標に向けた進路実現を達成できるよう指導する。また、各学年の要望を把握し、適切な情報を提示する。 ・長期休暇で実施される職場インターンシップを通して、職業を見据えた進学等を考えさせる。さらに年間を通じて国公立大学で開催される高校生向けの学習講座などを積極的に紹介し、知的好奇心を高め、学習意欲の喚起に努める。	・職場インターンシップ参加人数は、「一日看護体験」15 名、「幼稚園体験」3 名、学校教師未来塾 1 名で合計 19 名（昨年 16 名）であった。毎年大きな増減はない。夏季休業中、春季休業中に実施されるので、部活動との兼ね合いがあり増やすことが難しい。来年度は進路ガイダンス等でインターンシップの意義を伝えて、生徒に呼びかけていく。 ・2、3 年生対象の、オープンキャンパス、大学の学習講座等への参加人数調査結果では、オープンキャンパス：2 年 152 名（昨年 120）、3 年 145 名（昨年 176 名）。学習講座：2 年 46 名（昨年 18）、3 年 24 名（昨年 38）という結果であった。3 年生は減少し、2 年生は増加した。「新テスト」の影響と思われる。オープンキャンパスでは大阪、神戸、

			金沢、千葉など全国区の国立はもちろん、学びたい学問分野がある県外の公立大学（静岡県立、京都府立、滋賀県立など）にも目を向けている。また、私立大学では、関関同立はもちろんのこと、早稲田、青山、東京理科などの説明会にも参加している。さらに、自主的に、各大学の公開講座（名古屋市立）などにも参加している生徒もいる。来年度もより一層各大学の学習講座を勧めていきたい。 ・今年度も１年生の探究の授業で大学模擬講義体験を実施し、満足度は高かった。この模擬授業体験が３年になって大学の学部選択の一助になっている生徒が毎年いて、今後も続けたい。 ・１年生の探究の授業では、キャリア教育の一環として、６月にデンソー人事部、11 月にアイシン・コムクルーズ取締役社長による講演を実施した。生徒から積極的に質問が出るなど有意義な講演であった。 ・来年度に向け、大学入学共通テスト実施に伴う様々な変更に柔軟に対応する指導体制を確立していく。
生徒指導 （生徒指導部）	・規律ある生活習慣の確立と定着。 ～自己指導力の育成～ ・いじめ防止についての取り組み	・年６回の「身だしなみ指導」を実施。 ・遅刻防止のための「校門立ち番指導」を実施。 ・スクールカウンセラー（ＳＣ）の設置と連携。 ・ソーシャルワーカーの仕事の理解を図る。 ・生徒指導部による、企画運営の講話や全体集会の実施。 ・教育相談の充実を図り、いじめや不登校の問題について早期渇適切に対応。 ・年２回のいじめアンケートを実施する。	・年間を通じての定期的かつ組織的な身だしなみ指導と、各学年との連携で個々に指導を受ける生徒は減少し、多くの生徒が自己指導力を意識した対応が定着してきた。 ・学校教育活動のあらゆる場面で生徒の自己指導力を育む積極的生徒指導を意識し、実践していく。 ・12 月末時点での遅刻指数は、0.54 で昨年（0.71）より減少した。来年後に向け各学年で遅刻数や遅刻者の情報共有と早期の対応、日頃からの声かけによる生活習慣の確立へとつなげていくことが重要な課題である。 ・出欠席や遅刻について、原因を究明し、個々にあった対策を早期に実施していく。 ・身だしなみ指導や遅刻指導での教員間の共通理解の徹底を一層強化し、組織的な指導と対応ができる雰囲気と体制を整備していく。 ・ＳＣとの連携協力がスムーズに図ら

			れ、お互いのフィードバックも効果的に機能した。 ・教育相談体制の充実を図るべく、ＳＣや外部関係諸機関との連携を一層強化し、問題を抱える生徒に対して、組織として対応連携できる体制づくりの確立を図っていく。 ・各種検査からわかる生徒の状況を教員間で共有し、生徒への対応へ活かしていく。
図書館活動 （研修部）	・図書館の利用促進と生徒の読書意欲の向上。 ・授業研修週間の有効な活用。	・図書資料の充実と、読書・学習の場としての環境整備をさらに推進する。 ・図書委員会の主体的な活動をサポートする。 ・「授業研修週間」を設定し教職員へ周知する。	・今年度もクラス数減により生徒数が減ったが、貸出冊数・利用者実人数は例年と大差なく、各学年多くの生徒が図書館を利用した。今年度は生徒や先生方が利用しやすいよう保健室や職員室に出張図書館を設置した。図書館企画を実施し、展示を工夫したことにより、生徒が図書館に親しんでくれたようだ。 ・授業での図書館利用状況は昨年度と大きな変化はなかった。蔵書を充実させるため図書購入予算の増額が望まれる。 ・図書委員会の活動は活発であった。名南祭などの行事では図書委員が主体的に企画、実行し盛況であった。今年度図書館に新設した図書委員による展示コーナーも、生徒の創意工夫が見られ好評だった。来年度も継続していきたい。 ・授業研修期間には関係教科にとどまらず多数の教員の参観が得られた。参観者の感想にも参考になったとあり、有意義であったと思われる。
特別活動 （特別活動部）	・主体的な生徒会活動の充実	・執行部会・各種委員会の活性化及び定例日の活用。 ・生徒会執行部、各種委員会による行事の企画・運営とそのための組織作り。 ・名南祭 20 周年にふさわしい企画や運営の充実。 ・生徒会室の整備、資料・記録の整理。 ・ボランティア活動（校外清掃・募金活動）の企画、運営。	・執行部会はじめ各委員会は定例日を中心に、年間を通して継続的に開かれた。また、より主体的な生徒会活動にしようとする意識が定着している。 ・名南祭 20 周年企画として、前日祭の開催とモザイクアートの作成を行った。多くの生徒の協力もあり、概ね好評であった。 ・近年の猛暑を受けて、夏季球技大会、体育祭の開催が危ぶまれ、熱中症対策をこれまで以上に綿密に計画した。幸い天候に恵まれ通常通りに実施することができた。

			・今年度も、12 月のⅣ期考査最終日に執行部の呼び掛けによる“清掃活動(ウィンタークリーンアップフェア)”を行い、約 540 名の生徒が参加し実施できた。 ・赤い羽根共同募金では 27,435 円寄付できた。 ・「生徒会ディスカッション」は今年度で７回目になり、資料作り等においてさらに主体的・意欲的に取り組めるようになってきた。 ・２年目となった名南祭体育の部における縦割りもよりスムーズに実施することができた。 ・生徒会活動を生徒による自主的な活動にしようという意欲を持った生徒会執行部が、連日生徒会室を中心に活動し、各委員会も委員会顧問と連携をとりながら活動できた。全体的に生徒会活動は充実しつつある一方、執行部が仕事を抱え込みすぎる場面も見られるので、サポート体制の確立、仕事の分担や精選の仕方についてのアドバイス等、より積極的に行っていきたい。 ・合唱コンクール、球技大会、名南祭においては、関係委員会や職員の皆さんの協力により、無事実施することができたが、様々な点で反省点も浮かび上がってきた。来年度はこの反省をいかしてよりよい学校行事が運営できるように計画していきたい。特に、夏季球技大会および体育祭については実施時期も含めた検討が急務である。 ・ボランティア活動（校外清掃・募金運動など）も定着しつつある。今後は、年間を通じてボランティア等を意識できる活動も考えていきたい。 ・来年度も入学定員の１クラス減に伴って、生徒会予算が減額になるので、生徒会予算全体の見直しが必要である。
美化活動（ｺﾞﾐ分別回収の徹底と清掃の充実）（保健部）	・10 分間清掃の充実（監督者不在時の清掃）。 ・校外から持ち込んだものは極力持ち帰るように働きかける（ゴミの減量化）。 ・ゴミ分別に対する意識をさらに高める。 ・トイレ環境の整備・	・分別回収に対する生徒及び教職員の意識高揚のため、掲示物を整備し、呼びかけを充実させる。 ・清掃場所への移動を早くするとともに、屋外清掃時は靴の履き替えを徹底する。 ・現場（教室）での分別回収を徹底する。 ・美化委員会を開き、委員の	・ゴミの分別については生徒の意識も高く、クラスの清掃担当や美化委員の働きにより、特に問題もなく実施することができた。美化委員作成の分別を呼びかける掲示物も機能している。 ・「紙類を可燃ごみに入れないように」という通知が年度当初に名古屋市から突然あったが、全校生徒・職員の理解と協力のもと、大きな混乱もなくスムーズに移行でき、定着してきたことは

	美化と、その維持に努める。（トイレの正しい利用方法の普及・徹底と清掃の充実）	仕事を徹底させる。 ・生徒（特活部）に働きかけ、生徒の自主活動を通じて美化意識を高めていく。 ・校門付近で配られるチラシ・パンフレ ット類の受け取りについての指導を徹底させる。	よかった。不十分な点については、１階渡りでの美化委員の活動でほぼ完璧に分別がなされている。飲料水容器の分別についてもほぼできている状態なので継続させたい。 ・従来通り、外からの持ち込むゴミ類（パンフ・チラシ等）についても、生徒の意識が高く、良い状態が保たれている。 ・基本的には「外部からゴミとなるようなものは持ち込まない、持ち帰る」という今までの姿勢を徹底し、今後においてもゴミの分別・減量化にさらに取り組む。 ・トイレの適切な環境維持のために、今までと同様、毎日の清掃活動の継続と、必要物品の購入、および必要個所の修理等を確実にしていく。 ・授業終了後の１０分間清掃については、まずは時間確保のために移動が早くなるよう、定着するまでは根気よく声掛けをしていく。 ・教員の現場指導があって、生徒の清掃習慣の定着・習慣化が図られるので、今後においても現場での清掃指導をお願いしたい。 ・２学期に「生徒への事前通告なしの避難訓練」を実施できたことは良かった。また生徒の取り組み姿勢もよかった。
学校運営 （教頭）	・教員の多忙化解消 ・部活動の適正な運営	・教員の多忙化解消プラン・部活動ガイドラインに沿った学校運営を進める。	・学校開錠時間７時、閉庁時間２０時は年間通してほぼ守れた。 ・在校時間８０時間以上の職員は昨年度に比べて大幅に減少した。 ・各部の休養日は年間を通して授業日５２日間、土日祝日５２日間を確保でき部活動ガイドラインを守れた。 ・教職員の勤務時間外の電話対応においては、今後も保護者に繰り返しお願いしていく。
総合評価	・重点目標については、各分掌とも意欲的に取り組み、概ね成果を上げることが出来た。 ・世代交代を意識して、積極的に伝統の継承と改善、新たな取り組みにも着手できている。 ・生徒を伸ばす上で、家庭学習等がさらに自律的にできるような支援を考えたい。 ・今後も状況に応じた柔軟な取り組みを進めたい。		